

朝6時50分、朝が弱い私はその重たい体を懸命に動かし、眠たいまま新幹線に乗り込んだ。今回の研修を少し甘く見ていたため、新幹線では音楽を聴きながら、呑気にお菓子を食べていた。9時04分、東京駅に到着。東京に着いても、仙台より暑くて人が多いなどと、くだらない事しか考えていなかった。18時36分、東京駅出発。この時は、今回の研修に協力していただいた笹川平和財団の皆様、日本財団の皆様、訪問先の企業の方、OB、OGの先輩方、そして先生方への感謝の気持ちでいっぱいだった。今回の研修で、海外で生活するという事、自分の将来の可能性、今すべき事を学んだ。こんなに多くの事を一度に学ぶ機会はまだ二度とないだろう。20時49分、仙台駅到着。私の体力は限界に達し、強力な睡魔と格闘しながら自宅へと向かった。眠眠打破を持っていなかったのがとても悲しかった。21時某分、自宅に着いたと同時に、今回の研修を振り返りながら、羊を数える間もなく夢のワンダーランドへ出掛けた。

この研修のありがたさにまだ気がついていなかった頃、東京の建物の高さや人の多さに怯え仙台の良さを頭の中で挙げながら、ディレクトフォースの会場である笹川平和財団ビルへ向かった。始めに笹川平和財団理事長の田中伸男さんのお話をいただいた。田中さんは前国際エネルギー機関（IEA）事務局長を務めていたため、現在の世界のエネルギー問題や各国のエネルギーに関する事情などを、分かりやすく説明してくださった。学校では習わない部分が多く、とても良い勉強になった。次に、笹川平和財団の講師の方や、日本財団の講師の方からお話をいただいた。6人1班につき1人の講師の方がお話をしてくださる形式だったため、たくさんお話をいただけた。

最初に石川通敬さんのお話をいただいた。石川さんは、ニューヨーク、ロンドン、チューリッヒ、ロサンゼルスでの駐在経験がある方だ。定年退職後、長い海外生活で学んだことを基に大学で10年間講義をされていた。私は、旅行として海外へ行くのは良いのだが、住むのは少し抵抗を感じる。なぜなら、言語や習慣、文化が異なるからだ。幼稚な理由かもしれないが、実際異文化で生活すると始めはパニックに陥ると思う。しかし石川さんは、異文化で生活することに抵抗を感じず、好奇心でいっぱいだったという。そして、海外で生活する前に、その国の文化はもちろん民族や宗教を勉強するそうだ。異文化で生活する事を恐れず、楽しもうとする心構えは、見習うべきだと思った。石川さんは何事においても、「集めて分析・決断」「時代の流れを知る」「夢を持つ」の3つをモットーにしているそうだ。それがあの心構えに繋がったのだろう。

次に、酒井英次さんのお話をいただいた。酒井さんは、海洋政策研究所の海洋事業企画部・副部長、海洋研究調査部・海事チーム長として、海洋教育及び人材育成をしている方だ。酒井さんからは、プロジェクトリーダーとしての心構えを教えていただいた。プロジェクトリーダーは、自ら何かをするわけではなく、みんなに指示ばかりするわけではない。チームみんなの個性を潰さずに生かし、同じ問題意識を共有する事らしい。みんなと同じ問題を持ち、協力し合うことで、プロジェクトがスムーズに進み、チーム内の絆が深まるそうだ。先程述べた通り、酒井さんはチームの中の統率側にいる方なので、とても説得力があった。

次に、越川頼知さんのお話をいただいた。元気潑刺としていて、実年齢より5歳程若く見えた。越川さんは、35年間全世界の様々なインフラ・プロジェクトを担当していた方だ。インフラとは、インフラストラクチャーの略称で、国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設を指す。越川さんも石川さん同様、海外を転々としていたそうなので、石川さんと同じような質問を試みた。越川さん曰く、その文化を受け入れることはもちろん、当たり前な事だが、人の話をちゃんと聞くことが大事だそうだ。相手が言っている事があまり理解できなくても、良く聞いてきちんとコミュニケーションを取ろうとしないといけないんだとか。

最後に林茉莉子さんのお話をいただいた。林さんはイギリスの大学・大学院へ7年間留学し、大学院在学中の活動を通じてロンドンでNGO Walthamstow Migrants' Action Group（移民・難民を対象とした、非営利組織）を立ち上げたそうだ。現在は笹川平和財団でアジア地域を対象とした人物交流、人材育成、政策研究プロジェクトを担当している。林さんによると、イギリスにはイギリス人以外の外国人が多く住んでおり、逆にイギリスの方が少ないらしい。だから、イギリスに住んではいたが、様々な国の人と交流できたそうだ。林さんも越川さん同様、相手と積極的に話すことで友好を深めていったという。私は留学に興味を持っていたのだが、4人の方々のお話を聞いて、興味から行きたいという願望が変わった。単純に海外へ行ってみたくてというわけではなく、日本以外の習慣・文化などをこの身で感じてみたいと思ったからである。井の中の蛙はやはり大海を知るべきだ。

ようやくこの研修ありがたさに気がつき、体が目を覚ましてきた頃、私は班員と共に企業訪問先のコニカミノルタ東京サイト八王子へ向かった。私の班は全員、細かい分野は異なるが、技術者になりたいと考えている。そこで、複写機等の電子機器を製造・販売しており、世界50か国に拠点があるコニカミノルタを訪問したいと考えた。一流企業に訪問できると胸を躍らせている時、冷や汗をかく出来事が起こった。向かう駅を間違えてしまったのだ。幸いな事に時間が大幅にずれることは無かったが、漢字をきちんと読み取ることを心に誓った。そのような事を考えながら訪問先に到着し、コニカミノルタの概要と技術者の仕事についてのお話をいただいた。コニカミノルタは元々カメラを製造・販売していたが、現在はカメラの技術を生かし、先程も述べたように電子機器を製造・販売している。電子機器は、材料分野・微細加工分野・画像分野・光学分野の4つの分野がある。どの分野でも、次のようなプロセスで製品を開発・販売している。商品企画→要素技術開発→製品開発→生産技術開発→生産→販売支援→サービス・サポート。その中の要素技術開発から生産までが技術者の仕事らしい。それ以上詳しい事を知ることができなかったが、新しい事を知れたので良い経験になった。田中さん、貴重な休日であったのにも関わらず、私達に様々なことを教えていただき、本当にありがとうございます。

午前・午後と刺激的な経験をしたため、非常にテンションが高いままOB・OGによる懇談会を迎えた。全員が難関大学在学・卒業している方々であるため、独特な考えをもっていたり、やりたいことに一直線だったりそれぞれ濃い個性をお持ちだった。しかし、全員に共通しているのが、「自分のやりたい事ははっきりわかっており、持ち合わせている頭でできるだけ高めている」ということだ。OB・OGの先輩方の話を聞いていると、今自分が研究している内容を楽しそうに説明し勧誘したり、大学在学中に会社を設立して大学を卒業するつもりがない方がいたりした。学力の向上は、自分のやりたい事の幅を広げられるということを改めて強く感じた夜だった。

この二日間は今までの中で一番濃く、充実した二日間だった。この研修が1年生の時にしか参加できないのがとても惜しい。研修は今後には生かして初めて価値が生まれる。その価値を最大限に高めていきたい。そう心に留めながら、長針と短針が重なっていることを確認し、この作文を書き終わると同時に夢のワンダーランドへ出掛ける準備を始めた。